

3年生 12月のようす

道徳 生き物の命を大切にすることは

12月の道徳では、「ヒキガエルとロバ」というお話をもとに、生き物の命を大切にすることについて考えました。

「生き物の命を大切にすること」ということは、子ども達はすでに分かっていることです。「生き物を大切にすることはどういうことか。」と問えば、「殺さない。」「世話をすること。」という答えが返ってきます。

しかし、実際の生活において、私達は、食べ物として他の生き物の命をいただいたり、生活や身を守るために生き物の命を奪ったりすることがあります。

今回は、自分達の生命を維持するために、他の命が失われることがあるということが分かった上で、無意味な殺生をしてはならないことや命に感謝することについて考えました。



授業を通して考えたこと 「生き物の命を大切にすることは…」

- できるかぎり生き物を殺さないですむようにしたい。
- 命に感謝する。食べ物（肉・魚）は、もともとは生きているぶたや牛や鳥などを殺して、それを私たちが食べているのだから。
- 自分の命も大切だけど、他の人や生き物の命のことも考える。私たちが生きるのに命をうばわなくてはならないときはしょうがないけれど、わざと殺したりいじめたりするのはだめ。
- 命を食べているのだから、「いただきます。」や「ごちそうさま。」をちゃんと（心をこめて）言う。
- もし自分の手にありがのぼってきたら、木の枝などに乗せて、にがしてあげたい。
- 「自分じゃないから、いじめても（命をそまつにしても）いいや。」はだめ。もし自分がその生き物だったら…と考える。
- ぼくたちは、食べた生き物の命を受けついでいるから、感謝する。
- どうでもいい命はない。生き物を食べさせてもらっている人間は、感謝の気持ちをもつべき。
- 自分たちは、生き物を食べさせてもらっているのだから、そのお礼に生き物にやさしくする。